イタリアの飲食・宿泊業求人、無期雇用契約の提示が倍増し12.4%に

Restworldの求人6,872件の分析では、利益率が薄く雇用期間の中央値が190日にとどまるなか、人材定着を図る動きが示された

2026年11月16日（月）



2026年7～9月に掲載されたイタリアのレストラン・宿泊業の求人では、無期雇用契約を提示する割合が、サンプル内で前年同期から倍以上に増加した。賃金、生産性、利益率が業界全体で圧迫されるなか、従業員の定着に向けた取り組みが強まっていることを示す動きだ。

この結果は、Ristoranti Webが引用したRestworld Observatoryの報告書によるもの。同報告書は、2024年4月から2026年9月までにRestworldのプラットフォームで2,007社が掲載した求人6,872件を調査し、イタリア国立統計研究所（Istat）およびEurostatの経済データと比較した。2026年第3四半期には、求人の12.4%が無期雇用契約を提示しており、2025年の同時期の5.5%から上昇した。

報告書によると、この増加は同プラットフォームのデータ内では顕著だが、イタリアのフードサービス業界全体で同様の構造変化が起きたことを証明するものではない。サンプルには、Restworldで求人を出し、掲載内容で賃金を明示し、提示条件が契約上の最低賃金要件を満たしていた事業者のみが含まれるため、労働市場全体を統計的に示すものではない。

レストランなどのフードサービス事業者について、報告書は厳しい事業環境と労働市場の状況を関連づけている。バー、レストラン、社員食堂、ケータリングを含むイタリアのフードサービス業では、従業員の人件費が売上高の平均26.3%を占める一方、営業総利益率は11.2%にとどまる。これはRestworldが公的経済データを分析した結果だ。

報告書は、こうした平均値の背後には企業規模や業態による大きな差があると指摘する。従業員が10人未満の事業者では、労働者のおよそ10人に4人が経営者または家族従業員だ。Restworldの算出によると、このグループの1人当たり営業総利益は年間約17,000ユーロで、減価償却費、利息、税金、社会保険料を差し引く前の金額となる。同社は、これは経営者が実際に受け取る所得ではなく、利用可能な経済的資源を示す指標だとしている。

生産性も企業規模によって異なる。Restworldによると、従業員1人当たりの付加価値額は、小規模事業者の17,700ユーロから中規模企業の31,400ユーロへと増加する。中規模企業は売上高に占める人件費の割合も高く、31.5%と、小規模事業者の21.3%を上回る一方、原材料費の割合は低い。報告書は、比較対象となる企業間では業態構成やコスト構造も異なるため、こうした差を組織運営だけで説明することはできないとしている。

他の欧州諸国との比較では、イタリアのフードサービス業の年間生産性はフランスとドイツを下回ることが分かった。Restworldが加工したEurostatのデータによると、イタリアのフードサービス従業員1人が生み出す付加価値額は年間平均21,900ユーロで、フランスは35,000ユーロ、ドイツは26,300ユーロ、スペインは21,400ユーロだった。

Restworldは、フランスとの格差の一部は生産性そのものではなく、労働時間に関連していると指摘する。従業員1人当たりの年間労働時間はイタリアが1,181時間、フランスが1,561時間だった。時間当たりで見ると格差は約17%に縮まり、付加価値額はイタリアが1時間当たり18.5ユーロ、フランスが22.4ユーロとなる。報告書によると、従業員1人当たりの年間生産性には効率性だけでなく、パートタイム勤務、季節性、雇用の中断も反映される。

報告書の賃金データにも留意点がある。Restworldに掲載された求人では、提示された手取り月給の中央値は1,700ユーロで、13カ月目と14カ月目の給与を12カ月に分けて含めた金額だ。フルタイム求人では中央値が1,750ユーロに上昇した。賃金は職種によって大きく異なり、キッチンマネージャーは月額約2,400ユーロ、調理場の持ち場を担当するシェフは2,000ユーロ、ウェイターは1,580ユーロ、バーカウンター担当者は1,490ユーロの手取り額が提示されていた。

報告書によると、フルタイム求人の29%は年間総支給額が30,000ユーロを超え、9%は40,000ユーロを超えていた。Restworldは、サンプルには同プラットフォームに求人を掲載し、賃金を明示した雇用主のみが含まれるため、これらの数値を業界全体の実際の平均賃金とみなすべきではないとしている。

報告書は、雇用の不安定さが続いていることも示している。Restworldユーザーが報告した、すで

に終了した就業経験30万1,000件超を調べたところ、雇用期間の中央値は190日と、6カ月をわずかに超える程度だった。プラットフォームのサンプル内で無期雇用の提示が増えた一方、労働市場では依然として短期雇用が多いことがうかがえる。

報告書のデータでは、ホテルはレストラン業界全体とは異なる傾向を示した。ホテル、ホテル内レストラン、高級施設の求人791件を別途分析したところ、提示された手取り月給の中央値は1,800ユーロで、調査対象のその他の事業者の1,692ユーロを上回った。ホテルのフルタイム求人では、年間総支給額が30,000ユーロを超えるものが40％に達し、サンプルのその他の求人では26％だった。

賃金の差は職種別にも見られた。Restworldによると、調理場の持ち場を担当するシェフの場合、ホテル関連の求人で提示された手取り月給は平均2,158ユーロで、他の施設の同様の職種より181ユーロ高かった。生産性についても、ホテル部門はレストラン部門よりフランスに近い水準だった。Restworldの分析では、イタリアのホテル従業員1人当たりの年間付加価値額は52,100ユーロで、フランスの54,100ユーロとの差は約4％だった。

住宅も採用における大きな要因として浮かび上がった。Restworldによると、単身者向けの部屋の家賃は、ミラノでは提示賃金の約40％、ローマでは38％、トリノでは30％に相当する。このような状況で、住居を含む求人には応募者からはるかに大きな関心が寄せられた。

職種、四半期、地域を調整した分析では、住居を提供する求人は、住居のない同等の求人より応募が53％多かった。これに対し、職種別の中央値を上回る賃金の提示は、応募数の11％増と関連していた。報告書は、これらは統計上の関連性を示すものであり、単一の要因が応募増を引き起こした証明ではないとしている。

ホテルの採用では、住居の提供が特に一般的だ。Restworldによると、サンプル内のホテル求人の69％に住居が含まれていたのに対し、その他の事業者の求人では20％だった。季節雇用もホテルで大幅に多く、ホテル求人の62％を占めた一方、サンプルのその他の求人では16％だった。

市場データとは別に、Restworldは報告書を通じて、雇用主と労働者の間で「生産性協定」と呼ぶ枠組みを提案した。この提案は、労働時間当たりに生み出された価値を測定し、売上高、人件費、1シフト当たりの接客数などの指標を追跡することを柱とする。業務運営の改善と、得られた成果の一部を賃金に反映させることを目指し、税制優遇措置の適用も想定している。Restworldの最高経営責任者（CEO）兼共同創業者、Luca Lotterio氏は、イタリアの企業はすでに、賃金の上昇と収益の拡大が両立し得ることを示していると述べた。